

●協働学習

■児童生徒発表型

実践タイトル 調べ学習と効果的なプレゼンテーション

本時のねらい

わが国の主な食料は、世界とのつながりの中で支えられていることを、自作のプレゼンテーション資料を使って分かりやすく表現させる。またそれを電子黒板に大きく映して情報を共有することにより、自給率、安全性、環境、後継者問題などさまざまな課題があることに、気付けるようにする。

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

電子黒板

タブレットPCで情報を収集しプレゼンテーション機能（校内教材配信システムに付属）を使ってまとめたことを、電子黒板に映し出し学び合いを活性化させる。

PC教材

児童が作った具体的なプレゼンテーション資料を大きく提示することで、課題をクラスで共有し興味を持って思考したり、理解を深めたりすることができる。

参考にしてほしいポイント

- ・無線LAN経由でタブレットPCの資料を電子黒板に容易に映し出せるので、学習時間に余裕が生まれた。
- ・インターネットの資料、教科書の資料が容易に取り込めるので、効率よくプレゼンテーション資料の作成ができた。
- ・ひとつの課題につき数人がチームを作って取り組んだので、具体的事象・問題点や工夫・クイズなど、ページの役割分担をして短時間で資料がまとめられた。

学習の流れ(分)		主な学習活動と内容	ICT機器・教材、コンテンツ等
本時の展開	導入 0	○学習課題をつかむ。 食料輸入は、食生活にどんなえいきょうをあたえているのかの発表を聞き、これからの食料生産のあり方を自分なりに考えよう。	・電子黒板（教師用タブレットPCで作った課題を提示）
	展開 5	○班ごとに自分たちの課題について発表する。 ・わたしたちの食料はどこからきているのか ・輸入農産物の種類 ・食料自給率 ・日本と輸出国の違い ・食料輸入をめぐる問題 ○質問や意見を出し合い、考えを深める（5班×7分間）。 ○ノートに大切なことを書き留めながら聞く。	・電子黒板（各班数人が自分のデータを提示して発表する）（写真1）。 ・タブレットPC（写真2）
	まとめ 35	○次時の話し合い学習の資料とするため、本時のめあてについてのまとめをノートに書く。	・電子黒板 ・黒板（写真3）
	45		



写真1：別のデータをすぐに電子黒板に反映



写真2：電子黒板でタブレットPCを操作



写真3：電子黒板と黒板の併用

児童生徒の反応

初めてプレゼンテーション機能を使ったが、とても使いやすく自分から工夫を重ねて画面を作ることができた。そのため作成から発表まで意欲が途切れることはなかった。発表においては、電子黒板を用いて課題のまとめをクイズ形式機能を使って出題したり、インターネットや教科書から引用した資料を使ったりして伝えた。興味を持って見たり聞いたりすることで考察も深まり、具体的な質問や学習のまとめとなるような発言をする児童もいた。

活用効果

評価の観点	・社会的事象についての関心意欲態度 ・社会的な思考・判断・表現
具体的変容	1人1台のタブレットPCを活用したことで、誰もが意欲的に調べ、自分の力でまとめようとした。グループで作業したため、児童は効果的な資料の作り方や、発表の仕方を相談したり考えあったりして、工夫した表現をすることができるようになった。

実践の手応え

校内教材配信システム付属のプレゼンテーション機能は児童も容易に扱え、進んで使い方を見つけられるようなツールになっている。本時においては教科書や、インターネットの資料が容易に取り込めるため、本時においては意欲的に作業を進めることができた。発表では、次の画面を想像したり待ち望んだりして興味を持って学習を進めることができ、理解や思考にも深まりが見られた。